

「コロナ禍での困窮者支援活動から見えてくるもの」

雨宮処凜さん講演に80名参加！ —第28回定期総会記念講演—



あいさつをする松浦健伸代表委員



あまみや かりん

5月27日（土）に石川県社保協第28回定期総会を行いました。総括方針、決算予算、役員体制の提案のあと、討論では下記の4人の方からの発言で、議案を補強いただきました。今後ともよろしくお願いいたします。

- 「いのちの砦裁判の現状と石川県の活動報告」
吉原 和代さん（人権を主張するいしかわの会）
 - 「加齢性難聴者の補聴器購入助成制度実現の取り組み」
杉本 満さん（石川県健康友の会連合会）
 - 「保育福祉現場の実態と今後の取り組みについて」
庄田 成美さん（保育・福祉労働組合）
 - 「小松市での学校給食無償化実現の取り組み」
戸田 令子さん（南加賀新婦人の代読）
- 第一号～第四号議案まで一括して採択されました。

雨宮 処凜さん 記念講演

山下 あきさんとの対話形式でテーマを深める



作家、活動家、「反貧困ネットワーク」世話人、「いのちの砦裁判全国アクション」共同代表



Youtube
チャンネル
右のQRコー
ドからご覧
いただけます



貧困を自己責任にしない、誰もが「助けて」と言える社会に！

コロナ禍での貧困の実態は、私たちの想像を超えるものでした。これまでに2000件のSOSを受けてきた中で、その6割が30代以下。若年化が進んでいることと、女性の割合が増えているそうです。食料支援はコロナ前の10倍に！新宿では4月に723人ももの列ができたとのこと。子連れの子やカップルの姿も目立つそうです。コロナ第6波、7波では「原則自宅療養」の中で、自宅の無い感染者への対処法について、国は想定していないことが明るみになりました。ドイツや韓国の生活保護制度の紹介も。韓国では「国民基礎生活保障」と呼ぶそうです。講演の終盤に、雨宮さんの活動の原動力をお聞きしたところ、理不尽な社会への怒り、自分自身のためという颯爽としたお返事が。貧困が自己責任とされる社会はやはり間違っている。「助けて」と言える社会のために。皆さんと一緒に力を尽くしていこうと誓いあう事のできた講演でした。

「生活保護を誰でも受けられる当たり前の制度にしたい」「もっと制度を学習する気になった」
「衝撃的でした」「何とかしないとイケない！」

